

収録文書・資料所蔵者別解説

守屋大光氏所蔵文書二

葉山町堀内

当家所蔵文書は、平成12年度に整理を終えて目録を刊行したが、その後、所在が確認されて整理が完了した文書が本冊の目録である。今回の調査では、『改訂新編相州古文書』や『葉山町史料』に収載されながら前回確認されなかった文書が見つかり本冊に他の新発見史料とともにその目録を収録した。

前回の整理では、天文18年（1548）から昭和39年（1964）まで全2,716タイトルの目録を『神奈川県古文書資料所在目録 第23集』に収録した。全資料の内、中世及び近世の資料は、計134タイトル（146点）である。全資料項目を57種に分けたが、その内容のほとんどは、明治初期以降戦後の昭和20年代末に至る神社の維持経営、戦後における神社と神社界の再建に関する資料が中心であった。

今回の整理では『改訂新編相州古文書』や『葉山町史料』で知られていた古文書が発見されたこともあり、目録作成した年代は、治承4年（1180）9月19日から昭和15年（1940）に至る。総数は、全477タイトル（590点）である。その内、中世及び近世の資料は207タイトルであった。

守屋氏が社職を務める森戸神社は、源頼朝が伊豆の三島大社から治承4年9月分神を勧請し源氏の守護神として祀ったことに始まる由緒をもち、吾妻鏡にもしばしば記事が登場する社であり、江戸時代に入っては徳川家康から家茂に至る将軍家歴代の朱印状の交付、文化12年（1815）会津藩主松平容衆が当社で行った年穀祭奉幣、さらに海難から庶民の安全を祈願するための塩神楽という江戸時代からの祭りなども見られ、中世・近世・近現代と今日まで連綿として継承されてきた社（やしろ）である。これらの時代を通じて伝来した古文書が、後半の調査で明らかになった。本冊では次の項目を立てて収録した。

〈項目別〉神社（30タイトル、治承4年～明治8年）、神事（15、天和3年～昭和12年、内容は祝詞）、社職（12、元禄8年～明治28年）、朱印状（62、天正19年～慶応4年）、冊（30、明暦3年～昭和11年）、横帳（50、享保6年～昭和10年）、状（102、寛文9年～昭和15年）、地券（10、明治12年～同21年）、祝詞（62、文久2年～昭和15年）、記録綴（40、昭和9年～同14年）、社殿・社務所建築関係（26、昭和8年～同10年）守屋光春氏原稿（20、寛政2年～昭和4年 光春氏の調査史料）、その他（18、明治25年～昭和14年 写真、雑誌）

朱印状は、神社の項目に入るが、当家で黒漆塗りの朱印状箱に別置して特別に保存されてきた文書なので伝来の有り様を生かした。神事項目の資料内容は、「祝詞」であり祝詞としては別に項目を立てているが、当該資料が一括まとめて保存されてきたのでこれも当家伝来文書の有り様を示すために神事として扱った。参考までに、前回の祝詞の整理では、祝詞が木箱・紙性の箱に「祝詞」として保存されており、数量が777点と多数なので「祝詞」の項目を立ててその内容によりさらに項目内分類をして目録を作成した。調査は、平成13年10月24日から11月、12月、同14年2月27日迄の間で実施した。延べ11日間と延べ46人を要した。

葉山町役場所蔵旧堀内村等六ヶ村古文書

葉山町堀内

葉山町役場には、明治初期の木古庭村・上山口村・下山口村・一色村・堀内村・長柄村六か村の戸長役場から葉山村役場に引き継がれた文書と村役場が誕生して作成された明治時代から昭和20年（1945）に至る文書が「古文書」として保存されており、総務部企画課が管理している。前者の文書については、神奈川県史編集室が県史編集のため調査を実施した時に「明治22年上記（木古庭村等）6か村が統合して葉山村となる際、旧戸長役場から引継がれたものであろう。」と『神奈川県史資料所在目録―葉山町公文書―』で解説している。

この「古文書」として扱われている文書は、文書保存箱No.788～808に収納されて保管されている。これらの文書は、当町役場が各収納箱別に中の資料を束ごとに件名を付して確認が取れるようにしてあるが、束を構成する個々の資料についての目録は作成されていない。当館では保存箱No.795～808を調査対象に役場で作成した件名を分類項目として、束に一括された個々の資料を中性紙の保存袋に資料名・年代等所定の記載事項を記入して目録を作成した。

対象とした文書の年代は、元禄12年（1699）から主に明治20年（1887）代迄である。上限とする元禄12年の文書は検地帳で上山口村、一色村、長柄村3か村分、何れも原本が存在していた。検地帳の原本は元禄ばかりでなく、宝永5年（1708）、正徳3年（1713）の新田水帳も保存されていた。県史編集時の調査では、確認されていなかったようである。また、西南戦争に葉山の住人がかり出された文書や明治初期の村人生活の様相を伝える諸営業関係文書などが豊富に残っている。他に主な資料には、天保六年下山口村反別帳、文久二年下山口村宗門人別書上帳、慶応四年堀之内村三ヶ浦宗門人別書上書、安政六年田畑名寄帳、皇国地誌村誌、明治五年租税割付、皆済目録、神社明細帳、社寺元朱印地取調書上等社寺関係文書、酒造関係文書、明治十三年漁船取調書、三浦郡役所達等々が上げられるが、いずれも過去に利用されたことのない言わば新発見史料である。調査目録作成件数は、1,812タイトル。

葉山町漁業協同組合所蔵文書

葉山町堀内

漁業法が明治34年（1901）に制定されたことをうけて、同36年、葉山村に漁業組合が誕生した。今日の葉山町漁業協同組合の前身である。この文書群は、明治36年の漁業組合設立から昭和40年（1965）に至る漁業活動に関するその年々の記録である。主な資料に年度別経費報告書、年度別総会開催関係綴、往復文書綴、庶務書類綴、大正十年三浦郡水産会設立に関する議案、三浦郡関係鮮魚市場調、公有水面埋立願及び図面、漁獲高推移状況、船溜場築造に関する一件書類、定置漁業漁場図面、遭難救助記録、漁具・灯油・作業衣用綿製品等統制資材の配給文書、漁業生産実績報告書、漁業権調査表、漁獲物出荷先代金回収方法、資材・漁船関係書類、水揚げ高・損益計算書、漁業制度改革関係書類、漁船許可登録関係書類、水揚台帳、てんぐさ関係書類、発動機付漁船調査書、漁業鑑札、キテイ台風被害報告、鮮魚魚介海藻指導関係綴がある。漁獲高状況の推移、漁業権の設定、漁業権の行使方法、規則制定による漁業の調整、漁業権の補償などに豊富な内容をもつ資料群で、明治末年から、大正期、昭和戦前期、戦後期とその時代における漁村としての生業の有り様を知ることが出来る貴重な文書記録である。なお、漁業組合設立以前の明治前期漁業資料は町役場に、江戸時代の漁業資料は高梨昭氏所蔵文書にあり、葉山町漁業史を見る上に史料は豊かである。

調査の実施は、葉山町立図書館長の助言と葉山町漁業協同組合の協力により平成13年10月23日から同15年2月6日の間で行った。平成13年度は、10月・11月・12月・14年3月の延べ13日間52人、14年度は11月・15年1月・2月の延べ13日間69人で、合計延べ26日間121人を要した。資料の編集は、分類せずに編年を原則とした。調査・整理の作業は、葉山漁協会館内で実施したが、この調査が円滑に行えたのは組合長飯田 實氏、海貝耀子氏の懇切な御高配の賜物によるものである。目録作成総数は、1,252タイトル（件）。マイクロ撮影数は、445タイトル（15,450コマ）。

神奈川県古文書資料所在目録

第 25 集

編集発行 神奈川県立公文書館
〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1
☎ (045) 364-4456
FAX (045) 364-4459

発行日 平成17年7月1日

印刷所 ツルミ印刷株式会社
〒230-0034 横浜市鶴見区寛政町9-4
☎ (045) 508-6686
FAX (045) 508-7955

